

## 実施報告

## 実施日

2021年10月7日(木) 午前の部

## 参加校

114人の児童の皆さんに参加いただきました!

【山形県】南陽市立沖郷小学校	6年生	38人
【東京都】江戸川区立南篠崎小学校	6年生	42人
【愛知県】豊田市立中金小学校	5・6年生	11人
【福岡県】福岡市立堤丘小学校	6年生	23人



## アンケートより

## 学んだこと

- ・他の学校と交流をして、人それぞれの見方、考え方があるんだなと分かった
- ・動画の編集で、使っていない部分もあって送り手の思いで動画がつけられているとわかった
- ・アップやルーズは人によって感じ方がちがったりあたえる印象がちがうのでおもしろかった

## 参加した感想

- ・いろいろな所の人たちと考えるのが楽しかった
- ・いろんな3つの学校とメディアリテラシーを学んで、私の知らないことが分かったし、ケーキ屋さんの発表(事前課題)でそれぞれの学校の子たちが工夫していてすごかったし、すごく楽しかったです

## これから生かそうと思うこと

- ・自分とちがう意けんもきくこと
- ・ルーズとアップをつかって動画投こうする時につかいたいと思いました
- ・受け手として送り手として相手がどう思っているかやどう思うかを考えようと思った
- ・特に、受け手として、すべてが本当だとは限らないと考えるようにして、色々なニュースを見たり、意見を交かんしようと思いました

## 参加校の先生より

- ・今回は他校との交流ということもあり、少人数での意見の交流経験しかない児童が、相手に伝えようという意識をもって意見を発表することができ、子どもたちにとって大変良い経験となりました。授業の内容として、実際にアイデアを考えておき、発表をするという流れが良かったと思います。
- ・メディアの伝え方には、意図があり、情報をそのままそっくり受け取るのではなく、発信する側の意図があることを知っておかなくてはいけないことを実感できました。情報を発信する側に立った場合は、嘘や過大な内容を発信してはいけないことも再確認できた児童が多かったです。
- ・キャスターの方が、上手く発言をつないでくださっていたが、せっかく4校を結んでの学習ができる機会だったので、直接話をしたり、意見交換できたりするとより、一緒に学んだという実感がわくのではないかと思います。



## 実施報告

## 実施日

2021年10月7日(木) 午後の部

## 参加校

114人の児童の皆さんに参加いただきました!

【山形県】南陽市立沖郷小学校	6年生	35人
【福島県】喜多方市立熊倉小学校	5年生	16人
【東京都】江戸川区立南篠崎小学校	6年生	41人
【福岡県】福岡市立堤丘小学校	6年生	22人



## アンケートより

## 学んだこと

- ・(受け手として) 見ている人がどう思うかは、人それぞれだなと思いました
- ・(画像の) 加工は使い方によって良い印象や悪い印象をあたえるかもしれないということがよくわかった
- ・色々な人の意見がきけたし、編集、画像のアップとルーズ、加工には必ず、目的や理由があることが分かった

## 参加した感想

- ・自分の意見を友達だけでなく遠くはなれた人と共有できてよかった
- ・きんちょうしたけど、どの学校も(事前課題の)画像をえらんだ理由をくわしく話していいなと思いました
- ・みんなに自分の学校のことを教えられたからとてもたのしかった

## これから生かそうと思うこと

- ・他の人の考えを考えることをこれからの生活に生かしていこうと思いました
- ・画像や動画を見るときにどんなことを伝えたいかを理解しようと思った
- ・メディアには加工してあるものなどがあつたりしたのでこれからメディアを使うときには全ての情報をまにうけないようにしようと思いました
- ・加工のしすぎはよくないこと、アップやルーズを上手に使い、伝えたいことを工夫していくのを生かしていきたいです

## 参加校の先生より

- ・普段、あまり人前で発言しない児童が、しっかりと知らない相手に伝えることができるなど、意欲的に活動する場面が見られたり、逆に、普段は前に出ることが多い児童が、突然の質問に答えることができず、困る場面があるなど、一人一人がそれぞれ考えて、学ぶことができた貴重な時間でした。
- ・今回の学習を通して、メディア・リテラシーに対する意識が確実に高まったり深まったりした。各メディアを通して伝わる情報を、送り手の意図という視点抜きに100%信じ込むことは危険であることに改めて気付かされた。
- ・学校紹介は、それぞれの学校によって、紹介する内容や視点が違って面白かったです。事前課題を発表し合った際は、考えを比べられるように、各校が選んだ画像を比較できるように提示してもらえたのは、子どもたちに思考させるうえでとてもよかったです。この教室を通して、普通ならば絶対に話したり出会ったりすることがないであろう他県の6年生や5年生と話せたことが、子どもたちにとって、とても良い学びの一つになったようでした。





進行役・大橋拓アナウンサーより

(午前・午後の部を通して)

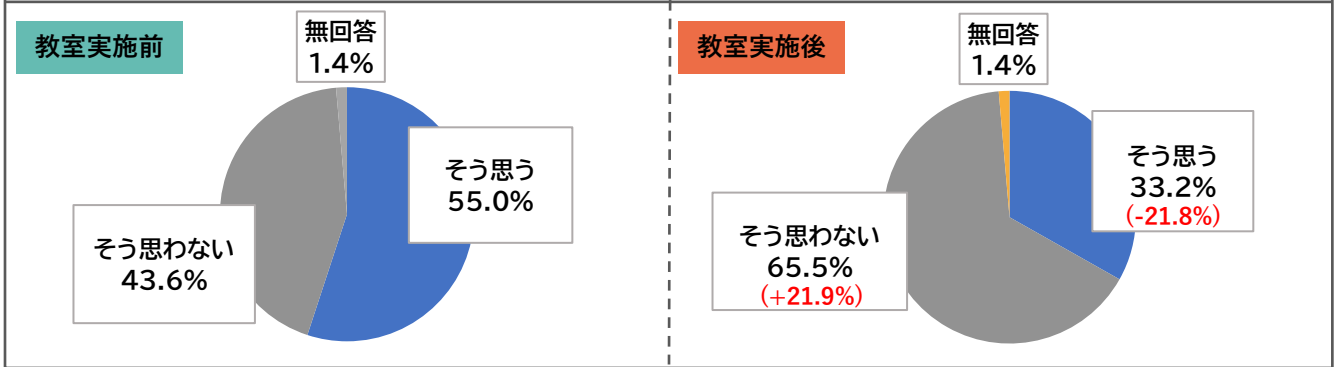
進行役を担当して改めて感じたのは、この教室には「不正解」がないということです。ケーキ屋さんの課題でいえば、どの画像を選ぶかは何を伝えたいかという「ねらい」によって違ってきます。その「ねらい」を受け取った人がどう感じるかも人それぞれ違います。正解や不正解はなく、子どもたちが意見を発表しあう中で、メディアの本質を学んでくれているのが伝わってきました。学校や教室で意見を出し合ったり、話し合ったりすることの大切さに、私自身も気づかされる経験となっています。



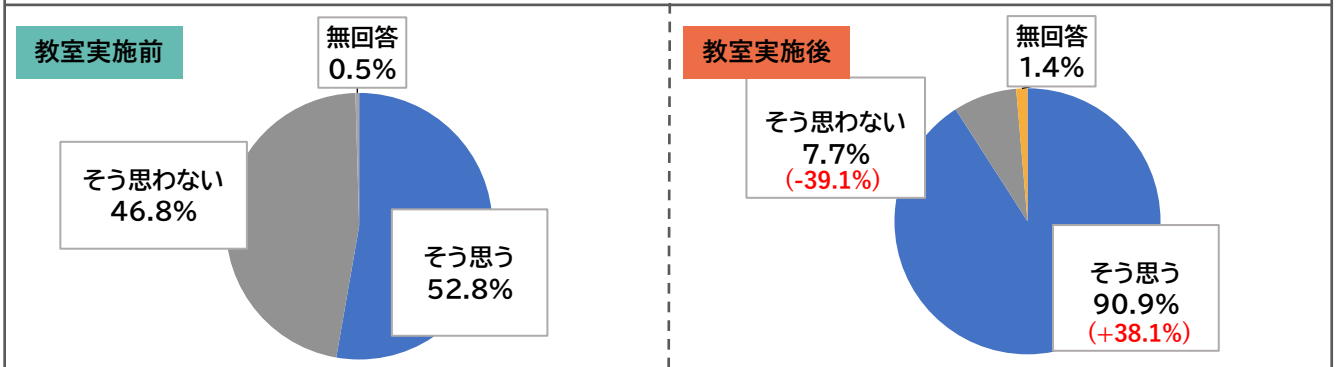
参加児童へのアンケート結果

(赤字は教室実施前との増減)

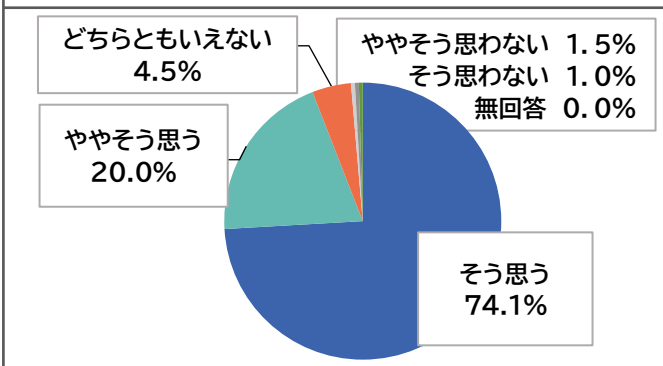
テレビ番組や動画コンテンツなどでインタビュー映像が使われる時は、かたよった印象を与えないように賛成意見と反対意見が同じ数だけ紹介されている。



観光パンフレットの写真は加工されている場合がある。



「つながる! NHKメディア・リテラシー教室」に参加してみて、楽しかったですか。



他の学校と一緒に取り組むことで、色々な考えにふれることができたと思いますか。

